

三宅島の現状（その16）

平成13年10月10日
現地災害対策本部（三宅島）

【島の現状 1】小泉総理大臣が来島

9月29日には小泉総理大臣が三宅島、秋川高校を視察されました。10時30分に三宅島空港に降り、バスで三七沢に向かわれました。現場では、えぐられた沢や建設中の砂防ダム、泥流被害の家屋をご覧になり、噴火災害のすさまじさを実感されたようです。その後、村役場で青山副知事、野村助役らと懇談されました。そのなかで総理からは、もっと早く三宅島に来たかったが、公務の都合などで来られませんでした。火山活動が続く中、島民の方々の心中をお察し致します。防災関係機関の活動に対して、政府として支援していきます。という内容のお言葉をいただきました。そして、12時20分には秋川高校へ向け飛び立たれました。

【島の現状 2】一時帰宅が終了

25日夜に「かめりあ丸」に乗った阿古地区Bの304人は、翌26日午前5時半に三宅島へ上陸しました。翌日の27日には阿古地区A（南部）・三池地区の328名が上陸。それぞれ荷物搬出や掃除などを短い時間の中でこなし、11時半には三宅島を後にしました。最後の神着地区は、3回も延期を余儀なくされましたが、3日に住民等351名が待っていた上陸をされました。これですべての地区の一時帰宅が無事に終了しました。このために何回も渡島された村役場、都庁、警視庁・消防庁、その他ご協力いただいた機関の皆様には感謝いたします。

【火山活動】少量の火山灰の噴出と依然として多い火山ガスの放出

9月26日11時29分頃小規模な噴火があり、東部で灰混じりの降雨がありました。翌27日、28日にも灰白色の噴煙が800m～1000mの高さで上がりました。また、6日午後にも、火山性微動、空振共にやや強くなり、噴煙の色も変化しました。しかし、この程度の噴火は一連の火山活動の一部であり、特に心配するものでは無いとのことです。

火山ガスは3日に三池港で3から4ppm、4日に伊ヶ谷地区で7から8ppmのSO₂が観測されました。4日の火山ガス観測によると、SO₂の噴出量は41,000t/日と急増しました。

【復旧作業】五つの仮橋完成

9月29日に三七沢、空栗沢に仮橋が完成しました。これで、島内に五つの仮橋が完成し、都道の円滑な通行が確保できるようになりました。また、NTTグループの協力の下、携帯電話もほぼ全島で使えるようになりました。

10月7日には、台風20号が接近したため災害復旧作業班は島外避難を指示しました。島内には防災機関の44名が滞在し、強風、降雨の中道路、泥流、配電施設等の点検を行いました。なお、台風通過後も海況が悪く、10日まではまゆう丸は運休しました。

【就労情報】

村役場では就労情報を提供し広報しておりますので、就労を希望される方は三宅村村民課相談係（代表03-5321-1111 内線45-640）にご相談ください。

なお、直近の情報は、ホームページ「三宅島を離れた村民のみなさまへ」をご覧ください。
(アドレス <http://www.miyakemura.com>)

財団法人東京都福利厚生事業団からのお知らせ

当財団では、三宅島噴火災害により避難生活を送っている島民の皆様への支援として、都庁総合売店で割引購入できるようにいたしましたのでお知らせいたします。

1 利用できる施設

施設名 都庁総合売店(伊勢丹都庁総合売店)
場 所 東京都庁都民広場地下1階 旅券課(パスポートセンター)隣り
地下鉄大江戸線 都庁前下車

2 内 容

店頭価格から5～20%の割引で購入できます。

3 実施期間等

期 間 平成13年10月～平成14年3月末
定休日 土・日・祝日及び12月29日から1月3日は定休日です。
開店時間 午前10時～午後7時まで

4 手 続

三宅島の住所が記載されている証書を、売店係員へ提示してください。
(例 島民証、運転免許証、保険証)

<問い合わせ先>

(財)東京都福利厚生事業団売店係 ☎ 03-5320-7394
都庁総合売店 ☎ 03-5320-7530

★ (財)東京都福利厚生事業団は、主に東京都の行政に携わる職員等の福利厚生事業と、都政の円滑な運営に協力する事業を行っています。

★ 総合売店は、東京都庁来庁者の便宜と東京都職員を対象とした施設で、主に紳士・婦人衣料品、服飾雑貨、雑貨、メガネ、期間限定商品等を扱っております。

○ポーチュラカが咲いています



ポーチュラカ畑

「げんき農場」のほ場や道端を見渡すと、一面すばらしい花のジュウタンが目につきます。

ポーチュラカ（花すべりひゆ）という植物で、原産地はヒマラヤ西部または北米とも言われているが、日本ではまだ馴染みが薄いものの、ここ2～3年で急速に品数が増え一般愛好家も増えつつあるとのこと。赤・ピンク・オレンジ・黄色・白など色とりどりの花が咲き誇っていますので、是非ご覧下さるようご案内いたします。

（農場に植栽されているものは、農業改良復旧員のOB国立市の瀧山先生から頂戴したものです。）



編集世話人会での編集風景

○編集世話人から

三宅島「げんき農場だより」は6月15日付の創刊号以来、今回で第6号を発行するまでになりました。大勢の場員の皆さんから、農場での作業風景やくつろぎの中での会話、またふるさと三宅島を想う気持ちなど色々な手記をお寄せ頂きありがとうございました。

編集世話人

川口 房歳、山内 ヒフミ、田中 ミトエ、杉本 冬、広瀬 トキハ、笹本 薫子、脇谷 正美

○三宅島「げんき農場」だよりバックナンバーについて

三宅島「げんき農場」だよりも今回で第6号の発行となりますが、平成13年8月より開設された三宅村のホームページ「村民の広場」の「三宅島げんき農場情報」において、三宅村「げんき農場」だよりの第1号から第6号までのバックナンバーが掲載されていますのでご覧ください。

村民の広場アドレス

http://www.miyakejima.gr.jp/info_miyake/index.htm

第 6 号

三宅島「げんき農場」だより

平成13年10月15日発行

発行元三宅島げんき農場

八王子市宇津木町236-1

TEL 0426-27-4355

○初秋の陽を浴びてぶどう狩りをしてきました



9月8日(土)、げんき農場で初秋の甲州路の探訪とぶどう狩りをしました。朝9時、2台の大型バスを連ね八王子駅(南口)を出発。中央高速に入り談合坂を経て笹子トンネルを抜けると段丘畑の一面は見渡す限りのぶどう畑でした。ここが今日の目的地の勝沼ぶどう郷です。初めに武田信玄公の菩提寺として知られる恵林寺を見学。時間が経過していたので予定を変更して昼食



をとることになりました。甲州名物「ほうとう」で満腹になったところで、メルシャン勝沼ワイナリーでワイン造りの工程の説明を受けたあと、大勢の人混みをかき分け、ちよっぴりですが、試飲にありつきました。最後にぶどう園でのぶどう狩り。勝沼が発祥の地で、琥珀色で味、香りとも良い「甲州ぶどう」の食べ放題でしたが、時間が短く残念でした。八王子着は夕方6時過ぎ、秋晴れの楽しい一日でした。

○「三宅島げんき農場」の節目 場長 奥山 彦一

平成13年4月、三宅島「げんき農場」が開設された。耕作面積1.3ha、14区画に開墾され、島特産の里芋、アシタバ、サツマイモ、ウコン、花卉類など色々のチャレンジ農業の作目が植え付けされ、原野が農園に変わりつつ。次から次へと雑草に追われ、カラ梅雨での灌水作業、例年のない猛暑等で苦労の連続でした。しかし収穫の喜びもありました。9月末日をもって、前期の人達が期限満了となり、後期にパトタッチされます。この大きな節目に際し、思い出を追って見たいと筆を取りました。

(1) プロ集団の仕事

長年の経験で会得した鋭い勘・技術・意欲、それらの全てにおいて、すばらしい集団でした。里芋の背丈、西瓜畑の大玉、アシタバの順調な成長、何時、誰に見せても鼻高々の農場、プロの集団、匠の技を残していただきました。

(2) 島で鍛えた強固な身体

場員の平均年齢67才。この高齢者の集団が、立派な農場を構築した。根性、忍耐、努力、責任感、これ等の全てを結集した成果は、島で鍛えた頑強な身体があり成しえた業。猛暑の中でも救急車の要請ゼロ。常識を超えた強靱な体力に改めて感服した実績でした。

(三) 喜びの毎日

八王子駅北口、産業技術研究所に農場専用のシャトルバス待合広場がある。ここで朝一番、島の仲間たちに会える。バスに乗り農場へ。朝礼で作業の割り当て、ラジオ体操を終え畑での作業。昼食時の会話。成長の早い畑作物と満開の花壇。収穫作業。苦しい中にも楽しい日々の連続であったと思います。先行きの見えない中で、げんき農場で働いた数ヶ月、全力投球と全精力を傾注した成果は立派であり、三宅の誇りです。ご苦労様でした。皆さんの努力は大きな種苗となり繁殖し再び三宅島の大地に戻される事を確信します。

場員の声

○「元気農場を去るに当り」(その1) 宮下 正一(武蔵村山市緑が丘在住:阿古)



場員の皆さん、一日毎に別れる日が近くなって来ましたね。振り返ると、島を離れてから一年余り私を始め大半の人達が、宿命とはいうものの生まれ育った三宅島を後に散り散りになりながら、苦難の道を歩んで来ました。年齢から申しますと、『長い人生ご苦労様』といわれても何の不足もない年齢と思いつつも、無情の風の吹きまわしか、ここ八王子市宇津木の地において農業に汗を流すとは考えてもみなかったことと想像いたしております。しかし、これも思えば人生の一コマの出来事と考えることによって、三宅島に帰った暁にはお互いの思い出の一コマとなることなのでしょう。思えば4月中旬、農場への採用通知を受け、早速、現地の視察をいたしました。一帯が牧草地になっていて、畑にするには大変手がかかるのではと感じて帰りました。あれから5ヶ月、農場開設以来一町三反以上の土地が開墾され、三宅から持って来た「里いも」をはじめ、各島、各地よりの「里いも」「さつまいも」等が次々と植付けられ、「明日葉」以外は近く収穫期を迎えます。一寸気になるのが「明日葉」です。「明日葉」は多年草のため、寒さに対する対策を考えて頂きたいと思っております。余談になりますが、この「明日葉」について誰の作かは定かではありませんが、こう詠んでおります。

「我なくも、ゆく末まもれ明日草(あしたぐさ)、食(はも)する人もなきにしもあらず」それほど「明日葉」は伊豆の島々においては大切な野菜であり薬草であったと思われまふ。また今年の夏は全国的な猛暑で八王子も39.1度とかの日もあったようですが、元気農場では一人の落伍者もなく、皆元気にこの夏を乗り切ることが出来ました。これも長年にわたり鍛えた体力と経験が大いに役立つ賜物ではないかと考えられます。心配した農場も今では立派な圃場となり、見事に生長した作物は収穫を待つばかりです。最後に、残り少なくなった日々を帰島も定かでない現実の中で、残された日々を忘れることなく思い出の中に留めて、この足で三宅の土を踏みしめる日まで、皆で頑張りましょう。感じた句

「見も知らぬ 宇津木の森の頂上(いただき)に なごり残して我ら去りゆく」
「西多摩の ひよどり山の一角に げんき農場今日もにぎわう」
最後に、色々と指導下さった各機関の方々に対し厚くお礼申し上げます。

「雑感」(その2)

三宅島より避難して1年余り、八王子宇津木の「げんき農場」で6ヶ月、三宅の人達と有意義に過ごした事は、私の残り少ない人生に大いなる元気と感銘を受け、心から感謝しております。一同元気で無事故郷へ帰れる日を祈っております。最後に、私のつたない句ですが、ご一読下さい。

○秋風や 宇津木の山も 蝉しぐれ

○名月も 雄山の雲の 影の中

○また来ると つらき別れの げんき農場

○帰るまで 後者に託す げんき農場

○いつかまた 通いなれたるこの道を 訪れる日があるやも知れず

○帰る日は いつかは知らねど今日もまた ひよどりの山の頂きを見る

○いそしんだ 宇津木の山も今日限り 共に過した小宮の山に 別れ惜しみて

皆手を握り合う

○お彼岸の 季節を知らず 曼珠華

○曼珠華 色にこだわる 人もいる

つになってきて「すごい」の一言につきる。そんな人達と、たった半年間だったけど一緒に働く事が出来て本当に幸せで良かったとつくづく思う今日この頃です。

・クワを持っての芋掘、サマになってた奥山場長

島の一寸おしゃれなお父さんといった感じでした。

・いつもニコニコ、穏やかな伊東副場長 ホッと出来る雰囲気を持った方でした。

・声まねで森進一をしてくれた山岸所長 今度は顔まねも一緒に見てみたいです。

・「畑へ行って来る」と言う「またまた何しに？」とあきれてた真人さん、

お互い人の顔と名前が一致せず、聞き合い、やっと覚えたのにな。

・この夏切ったメロンとスイカ、あれは何年分?

美味しかったけど今度は端っこではなく、真ん中を一緒に食べようね、和美さん、

・至らない所、いっぱいあったと思いますが...

道で会ったとき、また声を掛けてください。そして今度は島でげんき農場のことを話しましょう。場員の皆さん、本当にありがとうございました。

○「げんき農場前期を振り返って」横倉 三雄(稲城市向陽台在住:阿古)



げんき農場が開園してから5ヶ月が過ぎ、前期に採用された私達は9月28日で雇用期間も満了となった。この間、この農場で働かせて頂いた国、都及び関係機関に対し厚くお礼申し上げます、感謝しております。

この農場を振り返ってみると、開設時は何も無い荒地の開墾、根が四方八方に張った葦のような根っこ取りから始まり、耕しての種蒔き、里芋の根付と急ピッチで行ってきた。特に

今年の夏は暑く、八王子は気温が39℃にも上る猛暑の炎天下での草取り作業は過酷なものとなった。またアシタバは連日の日照りで発芽されない所も出た。

しかし、場員は三宅島での農業経験を生かし、いろいろ知恵を出し合い農業改良普及員さんの指導によって作物は立派に成長し、後期の人達に引き渡せるまでになった。

特にこの農場では、多くの人達との共同作業ではあったが、何のトラブルもなくリーダーと一致団結して作業が出来たことで、良い作物が出来たのだと思う。また、皆んな明るく楽しく働くことができ、特に朝のミーティングでは三宅島の情報を詳細に報告頂いたのも、情報を得る良い場となった。

しかし、9月に入ると場員の心も生長した作物を自分の手で収穫できないもどかしさと、雇用期間が残り少なくなるにつれ、これから先どうするか話題はそちらの方にいくようになってきた。

しかし、待っていてもどうにもならない。自分で打開して帰島出来る春が来るまで頑張っていて、また三宅島で明るい笑顔で会えるよう頑張ろうではないですか。

一時帰宅も始まり火山ガスも少しづつ減少の傾向があるので、島に戻る日もそんなに長くはならないような気がします。避難して一年は長いような短いような複雑な気持ちです。雄山の神よ、早く静かになって、元の平和な島に戻って、島民を迎えてくれることを祈っています。

※今回までの「場員の声」は前期に働いていただいた方たちを紹介し、次号からは後期採用者の方々を掲載します。

○「笑顔・笑い声の中で」 宮澤 イセ子（北区桐ヶ丘在住：伊豆）



朝、家を出て赤羽駅から電車と車のトンネルをぬって、ようやく「げんき農場」に着きます。『ヒマワリ』『百日草』その他色いろな花が「おはよう」と私達を迎えてくれます。農場では、『里いも』その他の作物が、大変大きく良く育ちました。暑い日や雨の日もあり、苦しい時もあったが楽しい日々でした。しかし、それも早や6ヶ月が過ぎようとしています。「交流の森」での昼食、皆さんの笑顔・笑い声に元気づけられたこと、誠にありがたく深く感謝しています。皆さん

もお体を大切に!! 全員で帰島出来る日を願いつつ・・・。

○「良いチームワークで」 沖山 勝郎（東村山市本町在住：阿古）



早いもので、もう6ヶ月たちました。島しょ農協の理事として農場の運営に参加しましたが、慣れない共同作業。名前も知らない人、作業経験のない人達等、いろいろな老若男女67名が集まって、本当に農場の作業が出来るのか心配しましたが、月日が経つにつれて仲間意識が芽生え、笑い声・冗談などが言えるくらい和やかな雰囲気になり、チームワークも良くなりました。また、小雨の中・強風の中・猛暑の中、泣き言ひとつ言わないで作業をした人達の

姿に感動しました。無事に怪我・病気などもなく、予定通りに作物を育てたみんなの力に感謝するとともに、みんなで協力して出来たことが今後の島の復興に大きな影響を与えるのではないのでしょうか。

東京に避難して早や一年、唯一明るい話題といえばこの「げんき農場」ではなかったかと思えます。色々な人達が注目している中、みんなの一生懸命に働く姿には頭の下がる思いでいっぱいです。

収穫目前に農場との別れになり寂しい気持で一杯ですが、6ヶ月働いた農場での思い出はみんなの心の中に残ったと思えます。先の見えない避難生活になりましたが、くれぐれも健康には気を付け、必ずみんなで島に帰り、復興に協力しましょう。

最後に、農場開園に努力された関係者の皆さんに心から御礼申し上げます。

○「げんき農場に学ぶ」 山本 照雄（八王子市南大沢在住：坪田）



農場が開設され、前期の6ヶ月を働いて、最初は通勤で苦労し、初対面の人達との気づかい、仕事の手順、また急ぐ事とそうでない事との区別。解らないながら里芋・サツマ・アシタバなど急ぐ順に作業が進み、植付が完了した時は嬉しかった。

本当に忙しかった、暑かった。67才という歳のせいか、本音で体力の限界でもあった。だけど畑に植えた作物の総てが孫の様に可愛い。風が吹けば倒れていないか、アブラ

虫や青虫で葉が無くならないか、雨が降らなければ枯れないか、また台風が一番心配だっ

た。幸いにも大きな被害もなく、後期に引継ぐ事が出来ます。

三宅の仲間達と過しての6ヶ月は本当に楽しかった。仲間同志で駅前の焼鳥屋で飲んだ酒の美味しかった事、色々数え上げればきりがありません。何もかもが楽しい農場でした。

<農場の目標>『元気で楽しく』『助け合って』『感謝の心』終わりが近くなりこの目標の意味が解るような気がする。全ての仲間達に助けられました。本当にありがとう。

「また会う日まで」必ず会いましょう。

○げんき農場の詩

平成十三年八月二十日

田中守節



桜の花の咲く頃に げんき農場開園し
島の人々 集りて
ヒヨドリ山も 賑やかなりと
小鳥も集まり 歓迎す
明日より始まる 此の台地

島を離れて 早や八月
始めて会った 人々は
おお、久し振りよと 抱き合っ
涙を流して 語り合
三宅に帰る 其の日迄

これから始る 農場も
暑さ厳しい なかなれど
島の大事な 産物なれど
額の汗を 拭きながら
島で鍛えし 此の身体

どんなに暑く なるうとも
皆んなの力で 種子を蒔き
皆んなの気力で 苗を植え
見事な作物 育て上げ
場員 生き生き 作業する

空はやさしい まよい雲
三宅の人よ 頑張れと
今日は涼しい 風が吹き
みんな蝉も 語りかけ
明るい笑いの 声がする

町を離れた やさしい山よ
心落ち着く ヒヨドリ山も
場員会う日も あと幾日と
其の日、其の日を 大切に
共に生きよう 希望を持って

○「げんき農場での思い出」 脇谷 正美 (八王子市別所在住：坪田)



事務補助として今日までの半年間を振り返ってみると、場員の皆さんが作業中に飲む「麦茶」づくりに追われる毎日でしたが、楽しく過せたと言うのが今の気持です。笑い声が絶えることがなく、農場のあちらこちらで飛び交う島弁が日に日に大きくなるような感じで、とてもにぎやか(みんな元気ダ)。全員ではないにしても、顔も名前も、まして話もしたことがない人、いっぱいいたと思う。でも半年で、まるで以前から知っていたかのように人の輪となり、まとまってひと

平成13年10月10日発行

平成13年10月10日発行

会報第77号

会員数 347名
男性 135名
女性 212名

シルバー みやげ

編集・発行
社団法人三宅村シルバー人材センター
東京都千代田区飯田橋3-10-3
シニアワーク東京2階
TEL; 03-3239-4343
FAX; 03-3512-3477

シルバーフェア開催

三宅村S/Cコーナーで写真展

十月二十六日(金)、飯田橋のシニアワーク東京でシルバー人材センターフェアが開催されます。当センターでは自然豊かな噴火前の様子、東京で元気に働く会員の姿を写真パネルで紹介いたします、にぎやかなシルバーのお祭りに、是非ご参加下さい。

当センターでは、毎年アシタバの苗を販売してきましたが、今回は避難生活の身で、ちよつと寂しいけれど、又いつかその日の来る事を願いながら、会場の一階ロビー(当センター事務所はこの二階)で写真展を開催します。

また、都内各シルバーでは会員手作りの陶芸品や手芸品、各島の物産販売、体験コーナーなど、にぎやかな一日になりそうです。

詳細は、左記のとおり

☆日 時 十月二十六日(金) 午前10時から午後四時まで

☆場 所 飯田橋・シニアワーク東京(JR飯田橋駅から徒歩八分)

☆催 事

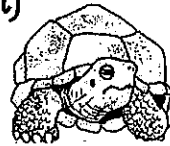
- 一、三宅村シルバー写真展
- 二、シルバー大市

椿油、木酢油、抗火石鉢物
アシタバ、手芸品、木工品
他なんでも揃う大市です。

オリジナルカレンダー

を作ろう

立川支所では、パソコンを習いたい方なら誰でも参加できる教室を無料で開催しています。パソコンに興味のある方、操作に自信のない方は、是非ご相談下さい。



- 三、体験コーナー
やさしいインターネット教室
障子・表装講座
体力測定コーナー
 - 四、交流広場
喫茶コーナー
簡単なお菓子づくり
指圧マッサージコーナー
 - 五、ミニステージ
コーラス、着付け舞、南京玉すだれ
- ご来場をお待ちしています。

会員の就労推進に朗報!

三宅島民就業力対策事業具体化

三宅村は、この程「三宅島民就業力対策事業」の実施を決定しました。この就業対策四事業のうち「レジャーファン種苗確保事業」及び「公立公園等清掃事業」の二つの事業を受託する事になりました。関係各機関との調整が終わり次第就業を開始します。

レジャーの種苗確保事業については、既にミニ・ニュースの先月号でお知らせした通り、就業する会員は十日間の予定で、すでに八丈島に渡って苗の植付け作業に従事しています。

また、「公立公園等清掃事業」については、八王子市の都立大、あきるの市の三宅高校、北

区の産業技術研究所などの構内環境整備を行うものです。避難してからの約百五十名の仲間が増えましたが、高齢者の就業は大変難しく、未就業の会員も多くいます。この事業は、これらの会員にとつて願ってもない朗報です。お互いに助け合いの心を忘れず頑張りましょう。

平成13年8月分事業実績 (単位:円)

月	区分	受託件数	就業延日人員	契 約 金 額			計
				配分金	材料費	事務費	
8	公共	1	71	262,700	0	10,650	273,350
	民間	9	324	2,011,535	0	19,925	2,031,460
	計	10	395	2,274,235	0	30,575	2,304,810
累計	公共	5	349	1,292,700	36,400	52,350	1,381,450
	民間	37	828	5,162,109	0	49,939	5,212,048
	合計	42	1,177	6,454,809	36,400	102,289	6,593,498

伝言板

★★★ あなたの口座に
振り込みます。
十一月十二日
十一月一日

投稿

早川信江(九一歳)
久々に逢えた島人
愛おしく
話はずめば心豊かに

配分金支払日

